＜小学校　特別活動＞

主体的に活動する意欲を育てる学級活動

― 話し合い活動の支援の工夫 ―

糸満市立糸満小学校教諭　具　志　幸　恵

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由 …… 23

Ⅱ　研究仮説 …… 23

Ⅲ　研究の全体構想図 …… 24

Ⅳ　研究内容 …… 25
　1　テーマについての基本的な考え …… 25
　　(1)　学級活動について …… 25
　　(2)　主体的に活動する児童像 …… 25
　　(3)　支援の過程 …… 25
　　(4)　学級活動における支援の在り方 …… 25
　2　話し合いの基本過程を身につけさせるための支援の工夫 …… 26
　　(1)　話し合いの基本技術の指導 …… 26
　　(2)　計画委員会の充実 …… 26
　　(3)　小集団による話し合いの設定 …… 26
　　(4)　話し合いの過程における教師の支援・援助 …… 27
　3　学級の支持的風土作りの工夫 …… 29
　　(1)　朝の会、帰りの会の工夫 …… 29
　　(2)　よさを認め合う学級活動の工夫 …… 29
　4　活動意欲を高める評価 …… 30
　　(1)　特別活動の評価の基本的な考え方 …… 30
　　(2)　評価の観点 …… 30
　　(3)　話し合いにおける評価基準 …… 30
　　(4)　評価の工夫 …… 30
　　(5)　評価の実際 …… 30

Ⅴ　授業実践 …… 31
　1　本時の指導計画 …… 31
　2　授業仮説についての分析 …… 32
　　(1)　仮説１の考察 …… 32
　　(2)　仮説２の考察 …… 32

Ⅵ　研究の成果と今後の課題 …… 32
　1　成果 …… 32
　2　課題 …… 32

＜小学校　特別活動＞

主体的に活動する意欲を育てる学級活動

― 話し合い活動の支援の工夫 ―

糸満市立糸満小学校教諭　具　志　幸　恵

Ⅰ　テーマ設定の理由

小学校学習指導要領では児童一人一人がこれからの社会において、心豊かに、主体的、創造的に生きていく力を身につけていくようにすることを基本的なねらいにしている。そのためには、児童一人一人のよさや可能性を生かすことを根底にし、児童が自ら考え、主体的に判断し、表現したり、行動できるように学習の展開をしていく必要がある。

児童の主体的な態度の育成は、全ての教育活動を通して配慮されなければならない。その中でも、学級活動は学級という集団の中で、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる活動であり、児童が実践によって主体的な態度を育成する格好の機会である。特に、話し合い活動は、学級生活で起こる諸問題に自分たちで気付き、計画を立て、話し合い、解決していくという主体的実践活動である。そこで自分の可能性を発揮し、友だちと協力してたくましく生きていくためには、その主体的実践活動の体験は極めて重要である。

ところが、話し合い活動について学級の実態を見てみると次のようになっている。

①「話し合ってほしいことを議題箱に入れたことがあるか」の問いに、「はい」と答えた児童が46％と半数を割っている。

②「計画委員会は何をするところかわかるか」という問いに対し、「はい」と答えた児童は23％と少ない。

③「自分の意見を発表しているか」という問いに対し、「はい」と答えた児童は10人(26％)で、発表できない理由として、「考えが思いつかない」「はずかしい」と答えた児童が多い。

これらのことから、児童が話し合いの流れを理解していないことや、経験不足から、活発な話し合いが行われていないことがわかる。

このような問題点を解決するためには、話し合い活動の過程において児童が、主体的にかかわりをもち、自分も参加したという所属感や自分たちで解決したという成就感を味わわせることが大切である。そのためには、まず、話し合いの意義や流れを知り、話し合いへの参加の仕方を理解させることが必要である。話し合いの仕方を身につけることができれば、児童も話し合いに目的意識をもち、自主的・自発的な活動意欲が出てくる。次に、話し合いの一連の活動において、役割を持たせたり、発表するなど活躍できる場をつくってやり、児童一人一人が認められるような、教師の支援・援助の工夫をすることも必要である。

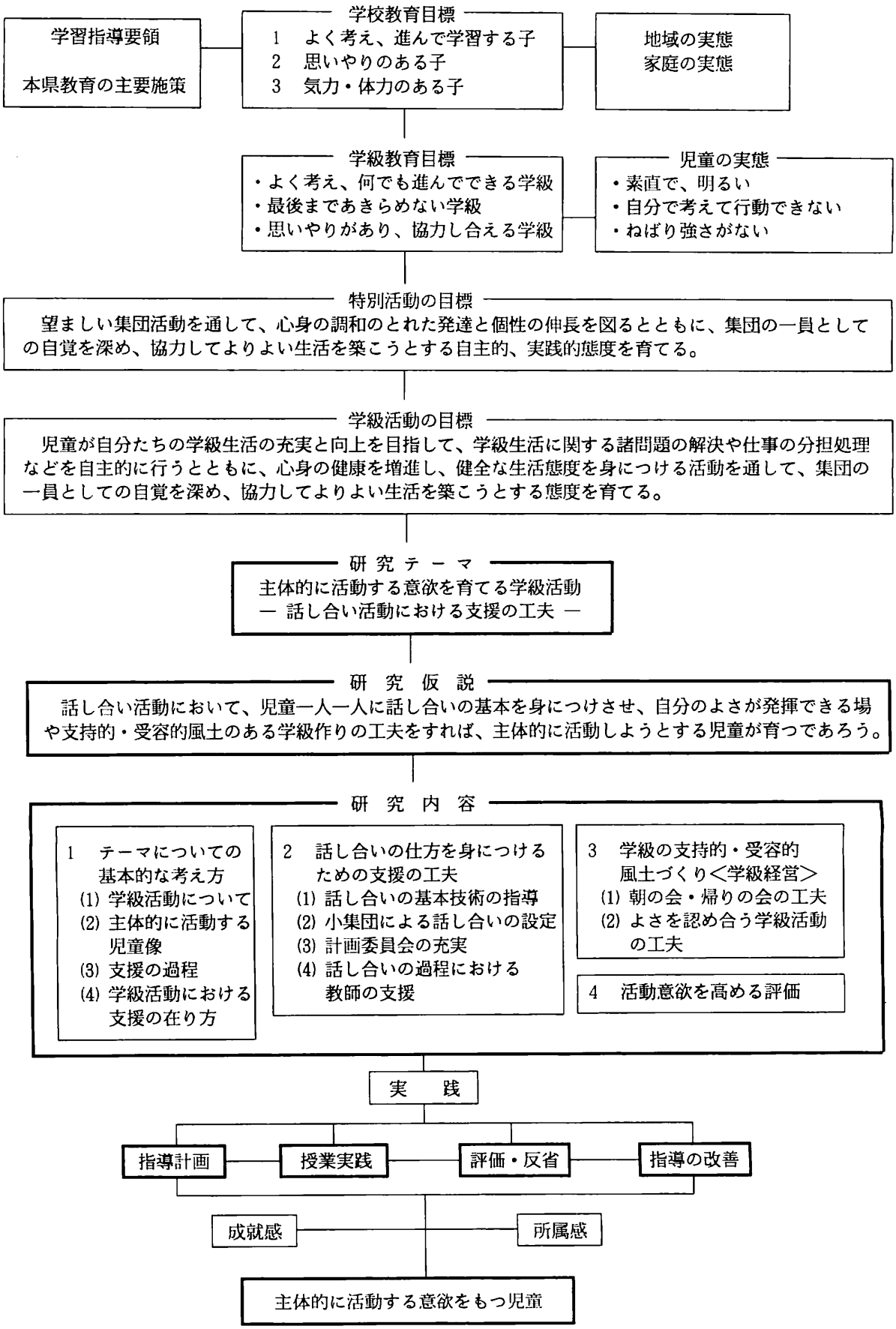
しかし、児童が発言できない理由の一つが「はずかしい」であることからも、学級内の人間関係が話し合い活動に影響していることがわかる。児童が進んで話し合いに参加できるようにするためには、普段から、人の意見を聞き、お互いのよさを認め合い、それを伸ばし高めていこうとする支持的、受容的風土のある学級集団作りを心掛けていかなければならない。

そこで、話し合い活動において、児童一人一人に、話し合い活動の基本を定着させ、自分のよさが発揮できる場や雰囲気が作れるような支援、工夫をすれば、主体的に活動する児童が育つのではないかと考え、本テーマを設定した。

Ⅱ　研究仮説

話し合い活動において、児童一人一人に、話し合いの基本を身につけさせ、自分のよさが発揮できる場や支持的、受容的風土のある学級作りの工夫をすれば、主体的に活動する児童が育つであろう。

Ⅲ　研究の全体構想図


学習指導要領
本県教育の主要施策
学校教育目標
1　よく考え、進んで学習する子
2　思いやりのある子
3　気力・体力のある子
地域の実態
家庭の実態
学級教育目標
・よく考え、何でも進んでできる学級
・最後まであきらめない学級
・思いやりがあり、協力し合える学級
児童の実態
・素直で、明るい
・自分で考えて行動できない
・ねばり強さがない
特別活動の目標
望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的態度を育てる。
学級活動の目標
児童が自分たちの学級生活の充実と向上を目指して、学級生活に関する諸問題の解決や仕事の分担処理などを自主的に行うとともに、心身の健康を増進し、健全な生活態度を身につける活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする態度を育てる。
研究テーマ
主体的に活動する意欲を育てる学級活動
― 話し合い活動における支援の工夫 ―
研究仮説
話し合い活動において、児童一人一人に話し合いの基本を身につけさせ、自分のよさが発揮できる場や支持的・受容的風土のある学級作りの工夫をすれば、主体的に活動しようとする児童が育つであろう。
研究内容
1　テーマについての基本的な考え方
(1) 学級活動について
(2) 主体的に活動する児童像
(3) 支援の過程
(4) 学級活動における支援の在り方
2　話し合いの仕方を身につけるための支援の工夫
(1) 話し合いの基本技術の指導
(2) 小集団による話し合いの設定
(3) 計画委員会の充実
(4) 話し合いの過程における教師の支援
3　学級の支持的・受容的風土づくり＜学級経営＞
(1) 朝の会・帰りの会の工夫
(2) よさを認め合う学級活動の工夫
4　活動意欲を高める評価
実　践
指導計画
授業実践
評価・反省
指導の改善
成就感
所属感
主体的に活動する意欲をもつ児童

Ⅳ　研究内容

1　テーマについての基本的な考え

(1)　学級活動について

学級活動は、子ども達が学級や学校の問題や日常生活に関することを自分たちの問題として話し合って解決する話し合い活動を基盤とする。話し合いは、すべての教育活動において広く行われるが、学級活動では話し合うことが目的であり、子どもの実践を目指した自主的な活動として展開されるところに特質がある。

また、学級活動においては、学級や学校の生活上の諸問題を解決するために、子どもたちが自分の考えを発表し、友だちの考えを受け入れながら、自他の多様な考えをよりよいものへと統合する話し合いが行われる。つまり、子どもたちが自分たちのよさを発揮しあって創意工夫し、問題を解決していく過程で、主体的で創造的な力を身につける活動である。

(2)　主体的に活動する児童像

新たな課題に進んでかかわり、自ら考えたり、判断したり、試みたり、表現したりすることができる児童

学級活動を充実させ、目指す児童像に迫るために、適切な支援を行っていくことにした。

(3)　支援の過程

子どもたちは、皆学びたい、よくなりたいと思っている。話し合い活動においても、自分の考えを話し、みんなに認められたいという子どもたちの願いや思いがある。そのような子どもたちの願いや思いを実現させるためには、子どもたちの発達段階を考慮して、一人一人を見守り、そのよさや可能性を生かし、高め、豊かにしていくという教師の支援が必要となる。つまり、話し合い活動を通して、自己実現を図ろうとしている子ども達のよさを引き出し、伸ばす教師の働きかけが支援といえる。その支援によって、児童は、自分自身のよさに気付き、主体的に活動する力を身につけ、自己を生かしていくことができる。

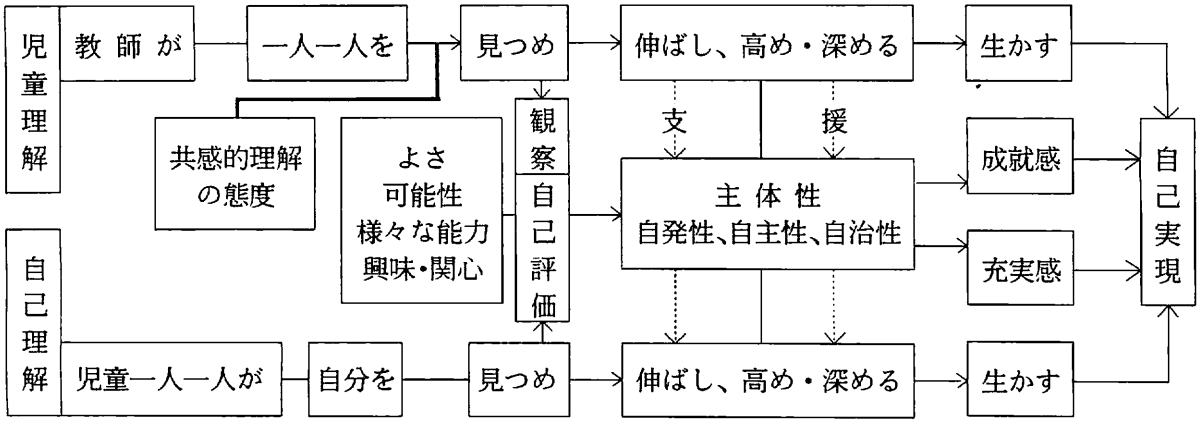


表１　支援の過程

(4)　学級活動における支援の在り方

これからの社会に生きる児童には、どんな変化にもたくましく生きるたくましい体と精神が求められる。そのためには、自分の考えをしっかりともち、集団生活において、正しく判断し、主体的に活動できる力を育てることが重要である。ところで、学級活動では、学級の問題を児童が自主的に考え、判断し、表現することを通して、所属感、成就感を高め、自己実現を図れるようにすることが大切である。そこで、適切な教師の支援の在り方として、

① 話し合いの基本を定着させ、主体的に活躍できる場の工夫を行う。
② 児童一人一人の活動意欲を高める評価(励まし)の在り方を工夫する。
③ 互いに認め合う学級の雰囲気づくりを行う。

2　話し合いの仕方を身につけさせるための支援の工夫

(1)　話し合いの基本技術の指導

児童に話し合いについてのアンケートをとったとき、話し合いで自分の考えが発表できない理由のひとつに「どう言っていいのかわからない」という答えが見られた。そこで、特に、話し合いにおいて、最も基本となる発言の仕方、司会の進め方について、マニュアルを示し、話し合いで生かすようにさせた。また、主体的に取り組む話し合い活動ができるようにするために、話し合い活動の意義を考えさせ、話し合いの流れ、約束、議題の見つけ方などを載せた、「おまかせ学級会」を配布し模擬学級会など体験を通して理解できるようにした。しかし、技術を身につけて欲しいと願うばかりに、話し合いが形式化してしまったり、児童の主体性が失われてしまわないように留意し、話し合いの場面に即して、自分なりの表現ができるようにすることをねらいにして指導を行った。

その結果、話し合いの実践において、児童は話型を生かして、つけたしや理由を入れた発言や友だちの考えを生かした発言をしようとする様子が見られ、司会もスムーズな話し合いを展開し、場面や状況に応じた発言もできるようになった。また、議題を提案したり、自分の考えを持って話し合いに参加できるようになり、計画委員会の運営では進んで役割を引き受けるなど、積極的なかかわりが見られた。

(2)　計画委員会の充実

計画委員会とは、話し合い活動を自治的、効率的に進めるための組織であり、話し合い活動においては中心的な役割を果たす。その活動を充実させるためには、

① 活動内容を明確化し、手順を示すことによって話し合いの流れを把握させる。

② 司会グループを輪番制にし、全児童に役割を経験させる。

③ 活動のための時間を確保し、条件を整備する。（計画委員会の進め方のマニュアル、計画委員会ノート、学級活動コーナーの整備等）※ 教師も話し合いには必ず参加する。

曜日	活動内容	担当	活動の場(時間)
金	1　議題案を募集する（呼びかけ） ◆朝、帰りの会から　◆係活動から　◆議題ポストから	委計 員画	朝の会 （2分）
月	2　議題案を集めて選ぶ ◆議題を選ぶものさしにそって選ぶ 3　役割分担をする（司会、副司会、記録、観察）		放課後 (20分)
火	4　議題を決定する ①議題候補案を出す ②全員で決定する ③取り上げられなかった議題案の処理 ④決定した議題を学級活動コーナーに掲示する	全 員 委計 員画	帰りの会 （5分）
水	5　話し合いの計画を立てる ①計画委員会の進め方にそって話し合う ②話し合い活動カードに提案理由、話し合う項目を記入	委計 員画 会	放課後 (30分)
木	6　話し合いの項目を知らせる(話し合い活動カードの配布) 7　資料、話し合いの準備	全 員	帰りの会 (10分)
金	8　話し合い活動 9　話し合いの反省 ①自己評価カードの回収 ②計画委員会の反省 10　決定したことを掲示する	全 員 委計 員画 会	学級活動 (45分) 帰りの会 (10分)

表2　話し合い活動における計画委員会の活動時間と手順

(3)　小集団の話し合いの設定

全員の前で発表することに抵抗を感じている児童であっても、小集団での話し合いであれば、自分の考えを活発に述べる事ができる。 そのために、グループでの討論の時間を話し合いの時間の中で多く持つようにし、一人でも多くの考えを反映させるようにしたい。また、話し合いがいきづまったり、考えが出つくしたときなど、グループでの話し合いを取り入れるよう司会に助言するようにした。

①グループ討論の効果

- 全体の前では発言できない児童も、発言しやすい。(自分も参加者の一員であるという自覚がでる。)
- 数多く発言できるので、友だちの考えを比較・検討して聞いたり、自分の考えを深めることができる。
- 少数意見にも目を向けることができるので、多数決に頼らない集団決定ができる。
- 協調性や連帯意識が養われる。

②グループ討論の約束

- グループは、男女混成とし、司会は班長が行う。
- グループ討論の制限時間を守る。
- 発表は、できるだけまだ発言していない児童を選び、発表の機会を増やす。
- 意見が対立している場合には、両方の考えを発表する。

(4) 話し合いの基本過程と教師の支援・援助

段階	児童の活動過程	主体的な姿	教師の支援・援助
事前活動	問題に気づく	学級や学校生活の問題点に気づき、よりよくしていく議題を考えることができる。	あらゆる機会と場から問題を発見させる ・問題発見の視点を掲示する。 学級がよくなるためにみんなで考えよう! ・学級や学校がよくなること ・困っていることや悩んでいること ・みんなの役に立つこと ・係や当番からお願いしたいこと ・その他(代表委員会から)
	議題を提起する		議題をいろいろな方法で提案させる ・議題ポストの設置、議題用紙の準備。 ・月に一度は、全員に議題用紙を配布し、議題集めをする。 ・朝の会や帰りの会で気づいたことを発表させる。
	議題の整理 議題の決定		提案された問題を整理し、議題の条件に合わせて選定できるようにさせる ・議題案の整理・処理の仕方を指導し、適切に行えるようにさせる ⇒ 問題発見の意欲を持続させる。 ・議題の条件を掲示し、望ましい議題を全員で決める。(火曜日、帰りの会) ① 学級の生活を楽しく、よりよくすることか ② 今すぐ話し合わなければいけないことか ③ 自分たちの力で決められることか ④ 決めたことが実行できることか ⑤ 学級の中だけでできることか ・取り上げられなかった議題案は、他の方法で解決できるようにさせる。 ◦次の学級会で話し合います。 ◦朝の会、帰りの会で話し合います。 ◦係にまかせます。 ◦日直や当番にまかせます。 ◦代表委員会に提案します。 ◦先生と相談します。
	話し合いの計画	話し合いのための準備活動を自主的に行い、活動計画を立案できる	輪番で話し合いの計画、運営に当たることができるようにさせる ・計画委員会の進め方(マニュアル)にそって話し合う。(水曜日、計画委員会) ・日時、議題、提案理由、役割分担、話し合いの柱、話し合いのめあて、時間配分を決める。 ・話し合いの見通しを持たせる。 ☆どのような意見が出てくるか。☆内容の軽重 ☆どのような方向の結論にもっていくか。 ・それぞれの役割の確認と話し合いの進め方を確認させる。また、マニュアル外の事態への対応の仕方など、不安を取り除き、自信を持ってやり遂げられるように打ち合わせをする。 ・学級全員に実施計画の発表をし、話し合いカードを配布する。(木曜日、朝の会)
	自分の考えを持つ	提案に基づいて自分の考えをもつことができる	話し合いに進んで発言できるように話し合いの柱ごとに解決策をメモしておく ・落ち着いて自分の考えが書ける時間をつくる。(木曜日、帰りの会) ・話し合いの事前に全員の話し合いカードに目を通し、一人一人の考えを把握し、よい考えはほめる。 ・考えが乏しい子、発言をしない子には個別にアドバイスをし励ます。
話し合い	話し合う 1 はじめのことば 2 係の紹介 3 議題の確かめ 4 提案理由の発表 5 話し合いのめあての発表 6 話し合い 小柱1 小柱2 小柱3	自分たちの力で話し合い活動を進め、話し合いを深めることができる 相手の立場を尊重し、より良い意見を発表する	《司会》 話し合いの始めから終わりまで司会を教師を頼らずにやり遂げられるようにする ・活動計画の話し合いの順序に従って、議事が進められるようにする。(司会の進め方のマニュアル) ・できるだけみんなの意見を引き出す努力をさせる。 ・何について話し合っているのか確かめながら進行できるようにさせる。 ・男女差別をしたり、好き嫌いの区別なく公平に指名するようにさせる。 ・話し合いがいき詰まったらグループで討議させる。 ・少数意見のよいところを取り上げながら進行させる。 ・安易に多数決をとらないようにし、賛成、反対の意見を多く発言させる。 ・時間を考えて会が進められるようにする。 ・意見を絞ったり、まとめたりすることが困難になった場合は、援助的な助言を行う。(助言例を参考) 《副司会》 意見の整理をし、司会に協力することができるようにさせる ・司会と協力して、複数の意見をまとめることができるようにさせる。 ・時間の調整や記録に対しての指示や確認をさせる。 《記録》 要点を押さえた記録が手早くできるようにさせる ・司会との連携で記録できるようにする。 ・話し合いの進行に役立つ記録がとれるように努力させる。 ・記録が実践や反省に役立つようにさせる。 ・学級活動コーナーに決まったことを掲示させ、実践への意欲づけを図る。 《観察》 友だちのよさを見つけるようにさせる ・発表だけでなく、聞く態度にも注目してよさを見つけるようにさせる。 (よさの例) ・つけたしの意見が言えた。 ・友だちの考えを認める意見が言えた。 ・うなづきながら聞いていた。 ・話す人のほうを見て聞いていた。 《話し合いの進め方》 話し合いの柱ごとに解決策を考えて会に参加し、進んで建設的な意見が言えるようにさせる ・大事な点がわかるように発言できるようにさせる。(話型を参考にして、発言できるようにさせる) ・話し合い活動ノートを見ながら、議事にそった発言ができるようにさせる。

話し合い	7 決まったことの発表 8 観察係から 9 先生の話 10 反省・評価	友だちの意見をしっかり聞くことができる	・少数意見も大事にする発言ができるようにさせる。 ・友だちのよさを生かすような発言ができるようにさせる。 発言しない子への支援 ・よい意見をもっているのに発言しない児童は、司会に指名を指示するなど発表の機会を持たせる。 ・小グループの話し合いで決まったことを発表させ、発表に自信を持たせるようにする。 ・発言できない児童に代わって代理発言をさせるなどして、徐々に自分で言えるように発言に慣れさせる。 ・話し合いの終末における教師の話は実践への意欲を喚起し、次回の話し合いへの活動意欲が高まるようにする。 ◇自主性（発言の少ない子が発言できた等）の見え出した児童への励ましと称賛 ◇建設的な発言ができた児童への称賛（具体的に例をあげてほめる） ◇決まった事柄についての承認 ◇話し合いを総合してのねぎらい ◇司会グループへの称賛とねぎらい ◇今後の実践に向けての励まし ・自己評価や相互評価を行い、自分や友だちのよさを見つけることによって活動への意欲を持たせ、次の活動へつながるよう内容を工夫する。
事後活動	実践活動 ↓ 実践後の反省・評価	自分の役割を自覚し、見通しをもって実践することができる	話し合ったことをさらに具体化したりして、自主的に計画を立て互いに協力しながら実践できるようにさせる ・決定したことは学級活動コーナーに掲示させ、活動の進み具合がわかるように朝や帰りの会で報告させる。 ・話し合って決めたことが実践に結びつくようにさせる。 ・教師も共に実践をし、児童の自由な発想を認め、絶えず称賛や励ましを与える。 ☆活動がうまくいっているとき → ほめる・見守る ☆活動が停滞しているとき → 活動の見直し・改善への援助 ・自主的に実践できるように用品用具の準備や活動場所、時間の確保をする。 ・励まし合い、助け合ってみんなで最後までやり遂げられるようにさせる。 実践後の自己評価や全体での反省も意欲的に行い、次の活動へ生かすことができるようにさせる ・よかったことを中心に自己・相互評価をさせる。 ・朝の会や帰りの会などで、自己・相互評価で見つけたよさを発表し、認め合うことによって満足感、成就感を体験させる。 ・改善点を明らかにして、次回への意欲づけをする。

☆話し合い活動における教師の助言

児童の自主的、自発的な活動を育てる話し合い活動においては、教師の助言が果たす役割は大きい。原則として、事前に指導を行い、話し合いの途中における指導はひかえるようにする。しかし、話し合いの進め方がまだうまくできない場合や、つまずきに対する指導など必要に応じて適切な助言を行うことが大切であり、児童を信頼しその成長を認め、かつ促そうとする温かな心を持つ基本姿勢が必要である。「～するとよいかもしれませんね。」「どちらがいいかな。」というような弾力性をもつとともに自主的に考えることを促す語尾の表現を用いるようにする。

◆話し合いの方法や技術についての助言

司会に話し合いの進め方の基本を示したり、方向性を示唆する。また、発言の仕方を具体例を挙げながら示す。

《話し合いが本筋から離れ、個人的に議事が引き延ばされている場合》

○○君、よくがんばって発表しているね。先生もよく聞いていましたよ。でも、話が少しそれていて進まないようなので、司会さん、みんなでもう一度何を話し合っているのか確認して下さい。

《結論を急ぎ過ぎている場合》

順調に話し合いが進んでいますが，これが一番いい方法なのか、もう少しよく考えてみてはどうかな。例えば、こんな点で……

《いろいろな意見が出て、整理ができない場合》

いろいろな考えが出ていて、まとめ方に困っているようですね。この意見の中で似たようなもの、はっきり違うものに分けてみてはどうかな。

《決定をする場合》

○つの案のうち、一番多い意見を取り上げて決定する方法のほかに、それぞれのよい点を生かして新しいものを話し合って決めていく方法もありますよ。この場合はどちらがいいかな。

《望ましい発言の仕方を場に即して指導しようとする場合》

前の人の発言をよく聞いて、自分の意見と比べてごらん。「○○さんに賛成です。」「今の○○君の意見に付け加えて」というふうに言ってから自分の意見を発表するといいですよ。

《少数意見を尊重しない場合》

○○君の発言の中にもいい考えがふくまれていますね。この意見もどこかで生かす方法をみんなで考えてみてはどうでしょう。

3　学級の支持的風土づくりの工夫

児童が意欲的に活動に取り組む学級を作るためには、お互いのよさを認め合える活動を展開することが重要である。活動内容により、授業中はもとより、学級の全教育活動を通してお互いのよさを認め合えるような活動を行うことが大切である。その活動の場を、特に朝の会と帰りの会、学級活動の時間に設定し、自らのよさや可能性に気付き、それを伸ばそうとする意欲を持たせるようにした。

(1)　朝の会・帰りの会の工夫

朝や帰りの会の時間は、担任教師にとって学級経営を計画的・効果的に運営する上で極めて大切な役割を担っている。また、児童にとっても学校生活への意欲づけや自主的な活動を引き出したり、人間関係を広げ深めたりしてお互いのよさを発見し認め合う場となるものである。そこで、児童を称賛する場や主体的に取り組める活動をプログラムに位置づけ、学級の雰囲気づくりを図った。

☆朝の会《一日の学校生活の出発点》

◇児童理解を図る場（健康観察等）
◇学校生活への意欲を図る場（今日のめあて）
◇係活動の活性化を図る場（係からのお知らせ）
◇表現力育成の場（会の進行、三分間スピーチ）
◇学級の雰囲気作り（歌、リコーダー）
◇称賛の場（教師の話の中に必ず入れたい）

☆帰りの会《一日の生活を反省し、明日へつなげる時間》

◇学校生活の反省の場（掃除の反省等）
◇係活動の活性化を図る場（係活動発表・紹介）
◇学級の文化的活動の場（ゲームなど）
◇児童相互理解の場(よいこと発見・自慢発表)

♦　朝の会
1 朝のレク(歌、リコーダー)
2 健康観察
3 今日のめあて
4 三分間スピーチ(テーマにそって)
5 係・計画委員会からのお知らせ
6 先生から

♦　帰りの会
1 掃除の反省
2 今日のきらり
3 何でもチャンピオン
4 帰りのレク(ゲーム)
5 係・計画委員会からのお知らせ
6 先生から

表3　朝の会・帰りの会のプログラム化

(2)　よさを認め合う学級活動の工夫

題材　　ぼく・わたしの自慢大会

1　ねらい

☆児童は、友だちや先生からいつでも認められたいという願いを持っている。 そこで、何かしら自分の得意とすること、自慢できること、頑張っていることなどを友だちの前で発表することによって、自分のよさや友だちのよさに気付き、認め合うことができるようにする。

☆一人一人のよさを生かして、より良い学級にしていこうとする意欲をもつ。

2　活動の展開

①　自分の得意なこと、自慢できること、頑張っていることを発表する自慢大会を行うことを予告し、 発表に必要なものがあれば準備させる。
②　学級活動　自慢大会を行う。
③　友だちの発表を見て、よかったところやすごいなあと思ったことなどを手紙に書く。
④　書いた手紙をみんなの前で読む。

3　留意点

・自慢を見つけることができない子へは、教師からアドバイスをする。
・手紙は、よさを認める感想になるように書かせる。

4　実践の考察

「○○さんがこんなことができるなんて知らなかった」「○○君は、こんなことができるなんてすごい」など友達の得意なことを初めて知ったことや、「これからもがんばって」という励ましなど友だちのよさを認めた感想を書いていた。また。それを発表すると、ほとんどの児童がうれしそうにしていた。自慢大会を開くことによって、自分や友だちのよさに気付き、認め合うことができたのであろう。教師自身も学校生活の中で見ることのできなかった、児童の隠れたよさを発見するよい機会になった。

4　活動意欲を高める評価

(1)　特別活動の評価の基本的な考え方

新しい学力観に立つ評価は、児童を中心に据え、一人一人の伸びようとするよさや可能性をとらえ、個々の児童の自己実現を支援していくことを役割としている。よって、特別活動の評価も活動の成果はもとより活動の過程を重視するものであり、児童の活動について、自分で評価できるように工夫することが必要である。

(2)　評価の観点

評価をするにあたっては、次のような観点に留意して評価を工夫する必要がある。

①　子どもに育成する必要のある資質や能力の面から評価の観点を明確にする。

②　共感的な態度で評価するとともに、評価の結果を明確にし、一人一人の自己実現を支援する。

- よさや可能性を認める。
- 伸びを認める。
- 目に見える変化だけでなく内面の変化を見つめる。
- 活動の結果だけでなく、思考の過程や活動の変化を見つめる。

③　教師の一面的な評価から、児童による自己評価・相互評価も取り入れた多面的な評価を行う。

(3)　話し合い活動における評価規準

◎5学年の話し合い活動の目標（評価規準）			
学級の問題、学校全体の問題を、自分たちの力で発見して議題とし、実践の見通しを立てて話し合い、責任をもって解決することができる。			
関心・意欲・態度	思考・判断	表現・技能	知識・理解
・学級の問題を見つけ、議題案を出そうとしている。 ・議題に関心をもち、自分の考えをもって話し合しあいに参加している。 ・自分の考えを進んで発表しようとしている。 ・友だちの意見を聞こうとしている。 ・決定したことを役割分担し、友だちと協力して実践しようとしている。	・学級生活に必要な議題を選択できる。 ・友だちの考えをもとに望ましい方向で決めようとする。	・計画委員会で話し合いのための準備ができる。 ・自分の考えを発表する。 ・役割上の発表や説明、連絡等が的確にできる。	・計画委員会の活動内容がわかる。 ・話し合いの進め方、問問解決の手順がわかる。

(4)　評価の工夫

児童一人ひとりの活動意欲を高め、主体的な活動へと発展していけるような評価を工夫していくことが大切である。

- 個人あるいはグループや学級集団への一言
  （例）「とてもよいことをしたね」「学級の問題を見つけて、自分たちで解決策を見つけようとしている。すごいね。」等
- 学級活動ノートや記録・観察ノート、計画委員会ノートなどによい考えや工夫が見られたら称賛し、努力の必要な児童には励ましの言葉を書き、自信につなげるようにする。
- 終末の教師の指導助言のための評価カード(チェックリスト)を作成し、よい発言や態度を具体的にほめる資料として活用する。

(5)　評価の実際

話し合い活動をふり返って よくできた◎　できた○　できなかった△		友だちのことで気づいたこと （発表、考え、態度など）
1 話し合うことについて、よく考えて参加した	◎	・00さんの「次の機会でやろう」と言ったところがすばらしかったと思う。 ・00君は、他のグループを反対していたけど最後には認めたところがよかった。
2 自分の考えを発表した	○	
3 友だちの意見を聞いた	◎	
4 友だちのいいところを認めながら話した	◎	
5 話し合う理由や順序がわかる	○	
感想	（がんばったこと、うれしかったこと、こまったこと、気づいたこと） ・初めて、「00さんの考えはいいと思いますが、～だと思います。」と発表できたところがよかった。 ・人の話をうなづきながら聞けた。	

表4　話し合い後の自己・相互評価

評価項目		発表回数		発表									聞く		よさ
氏名		前	今	自分の考えが言える	同じ考え	大きな声	質問	理由をつけて発表	友だちの意見と比べて	いいところ見つけ・助け	意見をまとめる	その他	うなづく	話す人を見る	
1	HO	0	0											○	一生懸命聞いていた。
2	KU	4	5	○			○	○		○				○	相手の気持ちを考えて話できる
3	SI	0	1							○			○		発表ができた

表5　教師のチェックリスト

V　授業実践

1　本時の計画

(1)　題材名　「みんなが仲良くなれるゲーム大会の計画を立てよう」

(2)　題材設定の理由

学級をよりよくするために、児童から提案された議題を自分たちの力で話し合うことによって児童はできたことへの自信を持ち、次回への意欲をもつことができる。一人一人の児童が、「みんなが仲良くするためにはどうしたらよいのか。」という問題を自分たちのものとしてとらえ、積極的にかかわり、自分たちで解決できた成就感や所属感を味わわせたい。

(3)　授業の仮説

①　話し合いの目的や流れがわかるようになれば、自分の考えを持ち、進んで話し合いに参加しようとする意欲が出てくるであろう。

②　話し合いの中で、活躍する場や自分や集団の意見が認められる場があれば、成就感や所属感を持つことができ、主体的に活動する児童が育つであろう。

(4)　評価の観点　(評価計画は省略)

【関心・意欲・態度】・自分の考えを進んで発表しようとしている。
・友達の意見をしっかり聞こうとしている。

【思考・判断】・友達の意見を参考にして自分の考えを言うことができる。

【表現・技能】・自分の意見を言うことができる。

(5)　指導計画は省略

(6)　展開

議題	みんなが仲良くなれるゲーム大会の計画を立てよう		
学習活動	児童の活動	教師の支援・援助	評価
1 はじめのことば			
2 歌をうたう	・レク係が中心になって楽しく歌う。	・緊張感をほぐし、和やかな雰囲気で話し合えるようにする。	
3 役割紹介	・役割児童が自己紹介をする。	・役割を紹介することで自信と自覚を持たせる。	表・技 3
4 議題の確かめ	・大きな声で読む。	・「自分たちの問題である」という問題の意識化、共通化を図らせる。	
5 提案理由の説明	・はっきり分かりやすく発表する。		
6 話し合いのめあての発表			
7 話し合いの順序の確認		・事前に話し合いの柱を話しておき、意見を持って参加できるようにしておく。	
8 話し合い		・自分の考えを理由もいっしょに言えるようにする。	
(1)各グループの発表	・みんなに分かりやすく(絵や図を使うなど)説明する。	・各班ごとに発表の役割を決めさせ、活動の場を与える。	表・技 2
	・友だちの意見を聞いてメモをしておく。	・考えてきたゲームを自信を持って発表させる。	表・技 2
(2)各グループへのアドバイス	・友だちの考えもふまえて、自分の考えを発表する。	・どうすればみんなが仲良く楽しく参加できるのかを考えながらお互いの意見を尊重しあって意見交換ができよう支援・援助する。	思・判 1 表・技 2 関 4
		・友だちの意見をよく聞き、自分の考えを持つようにさせる。	表・技 2
		・グループで話し合わせ、グループの友だちの意見を聞くことによって自分の考えを深めさせる。	思・判 2 関 3 関 4
(3)意見の集約	・どのゲームにするか発表する。	・すぐに多数決を採るのではなく、意見を統合したり別の機会に実施することを確認して、全員が納得して進められるようにする。	表・技 2
		・45分内に終われるように3つ位に意見を絞る。	思・判 2
		・意見がまとまらないときは、グループで話し合わせる。	関 3
(4)どんな係が必要か			関 4
9 決まったことの発表		・決まったことをノート記録に簡潔に発表させ、決定事項の確認と実践意欲をわかせる。	表・技 3
10 観察係の発表	・発表の仕方、聞き方、または今日の話し合いでがんばった友だちを称賛する。	・よいところを認め合うことによって次の活動への励みとさせる。	表・技 3
11 先生の話		・めあての達成について、よい発言や話し合いの進め方、がんばった児童へ称賛を与え、実践への意欲化を図る。また、司会など役割児童のよいところをとりたて、労をねぎらう。	
12 終わりの言葉			

2　授業仮説についての分析

(1)　仮説１の考察

☆「考えを持って参加できたか」という問いに対して66％の児童が考えをもって参加しようとしていたことがわかる。また、「話し合いの理由や順序がわかりましたか」という問いに対して、72％の児童が話し合いの流れが理解できたと答えている。このことから、話し合いの目的や流れがわかったことによって、自分の考えを持つことができたといえるのではないだろうか。実際の話し合いでも「みんなが仲良くするためには」ということを考えながら発表していた児童が見られ、以前より、話し合いの目的が児童に浸透していたと考えられる。

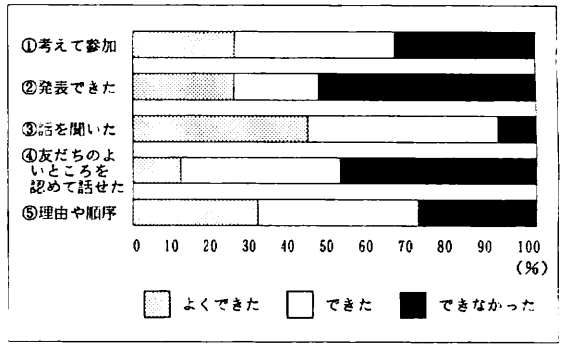


表６　話し合い後の自己・相互評価

☆「自分の考えを発表できましたか」に「よくがんばった」と答えている児童は44％で半数を割っており、自分の考えを持っていても、発表するまでにはいっていないようである。しかし、事前の調査では、26％であったことを考えると、少しずつではあるが、意欲の向上が見られる。また、「友だちの意見を聞くこと」については、91％の児童が「がんばった」と答えており、話し合いに参加しようとする気持ちが見られる。以上のことから、話し合いの基本的な技術を身につけさせる手立ての工夫をすることによって、児童の中に参加しようとする意欲を持たせることができたと言える。しかし、「考えを持って参加できなかった」「話し合いの理由や順序がわからなかった」がそれぞれ３割近くいることから、児童の実態に合った支援を行い、意欲を持たせていくことも必要である。

(2)　仮説２の考察

話し合いの中で、児童が活躍する場として、自分の意見を発表する場、グループのゲームを発表したり討議する場、司会グループとしての役割を遂行する場、と考え手立てを工夫した。その結果、「学級会で初めて意見が言えた。」「グループの話し合いのときは、意見が言えた。」「きれいな字で責任を持って記録ができた。」と感想を述べている。つまり、活躍する場があることによって、児童は自分のよさを発揮することができ、「～することができた」という成就感を感じていると言える。また、「友だちの気持ちを考えたり、意見を認める発言ができた」という児童が54％おり、話し合いの中で友だちのよさを見つけようとする態度が出てきていることがわかる。

Ⅵ　研究の成果と課題

1　成果

(1)　話し合いの一連の過程において、意図的、計画的な支援の工夫を行うことによって児童が自分の考えをもって話し合いに参加できるようになった。

(2)　一人一人の児童が活躍できる場を設定することによって、話し合いに進んで関わろうとする児童がふえた。また実践においても、創意工夫したり協力して活動する姿が見られるようになった。

(3)　「ぼく・わたしの自慢大会」の実践を行うことによって、自分のよさや友だちのよさを認め合う、学級の雰囲気づくりができ、話し合い活動にも生かすことができた。

2　課題

(1)　話し合いの展開における教師の助言のタイミングがうまく図れず、授業が長引くという結果になってしまった。助言の仕方や、意見の集約のさせ方をさらに研究していく必要がある。

(2)　話し合い、実践したことを次の活動につなげていくための支援の工夫と評価の在り方を研究し、児童の主体的な活動意欲を継続させていきたい。

(3)　一人一人の実態に即した支援を工夫し、どの児童にも成就感、充実感を味わわせるようにしたい。

(4)　学級経営との関連や連携を工夫し、指導を積み重ねることによって主体的に生きる力を育てたい。

＜主な参考文献＞

文部省	『新しい学力観に立つ特別活動の授業の工夫』	東洋館出版社	1995年
沖縄県教育委員会	『特別活動指導資料　学級活動』		1995年
宮川八岐著	『主体的に生きる力を育てる学級活動と学級経営』	明治図書	1995年
有村久春編	『小学校話し合い活動の実践相談と指導技術』	明治図書	1994年